

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



和清山香 校學門專 校學門專 校學門專 校學門專

毛織王國の都一宮の一隅より

愛知縣毛織物検査所一宮支所 紡織科第五回卒業生 岡 豊 治 郎

一宮市歌 (尾上柴舟氏作詞) 大君の大御光に 鏡ひ映く機業の花の 燦として照らすまにまに 果てもなく榮ゆるわが市 あゝわが市 一の宮

一宮民謡 (北原白秋氏作詞) 水は木曾川 毛すぢも糸も ハツチャエ(之は杵の音) 好きな思ひの チヨウカラ トンカラ 色に染む ハー 色に染む ハツチャ ハツチャ ハツチャエツト 紡績工場に約四年、織物工場に約一年、製絲工場に約四年、會社の内外部の悪環境がら、その存立の死線をさまよふ會社勤務を、工場生活の最後として、到頭一番いやだった官更生活に入つてより早や三年目である。尤も生れて始めて体験する官更生活ではない。農林學校を出て縣の農事試験場の農藝化學部と品種改良部に助手を二年して居た事がある。それは徴兵検査前の事である。郷里三重縣に於ての官更生活に比較して私には今迄にない落付いて然かも氣樂に勤務出来る所である事を知つた。

起町、奥町方面には此處に其處にも軒並に工場ありて甚だしきは民家の土間や鶏舎様の建物の中に擦絲機又は織機を設置してそれら四、五台位で盛んに製造してゐる。勿論工場組織又は之に類似の設備を有するものは数限りなくある。昨年六月毛織工業調査員として出張の節痛感せることは近郊の田舎で農業が本當で機業が副業か又はその反対か判らない家が多數あつた事である。今尙ほ盛んな勢ひで工場の新築、増築相次ぐを見てその躍進振りが如何にも毛織物王國の名に房はしいと云ふ事を感じる。毛織工業が明治初年家内工業より發達して現在の躍進振りを示す迄の歴史は相當幾度かの浮沈盛衰と大なる辛酸をなめたのであるが又幾年か後には工場温立の弊が起るのではないであらうか。その結果必然統制問題や生産制限問題等に不幸にも遭遇する時、前述の如き家内工業式の機業は自然淘汰されるのではなからうか。絲高に多少支配されるのは云々置より實に移行しつつあるのではなからうか。而して當地方の一般機業家に原絲購入の際に絲質の吟味を厳にする事と使用男女工手の訓練に意を注いで戴き度い様な氣がしてならない。末は兎に角として現在に於ては盛んなる勢を以て純毛織物の途上であり、又技術に於ても純毛織物は勿論、綿、絹、人絹、麻、ステープル、ファイバー等の他纖維を混織、混紡使用するものにも夫々新工夫を新工夫と研究、考案に餘念がない。又當市にある染織試験場の功績も大である。之に加ふるに尾西地方人獨特の不撓不屈の精神に打開の途を擇びて行かれることも亦頼もしい限りではある。

愛知の毛織工業よ、永へに彌榮と祈つてやまない。更に全国的に毛織工業技術の向上と生産力の發展増加して益々日本製品が何んの支障なく海外に出て確固たる信用と地位を得る様祈りたい。市は機業の躍進々々の影響を受けて活景氣に充満して居る。納税に於ても全國第二位の優秀成績を第一位の八幡市とは錢以下の僅少な差であつて本年こそは第一位ならんと意氣込んで居る。

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機 二五九七年代表型 製作發賣元 株式會社 大和三光商會 東京京橋區京橋三丁目二番地 電話京橋(56)五三二〇番

用と云つてもよい二、三圓位のものから純毛物で紋織や防、披染等を施したもので二十圓以上のものもある。皆様の手に入る商品となる時は相當な高値となつて居るし最も信用のある百貨店等ではマーケット代も値段の中に入るのはなからうか。當地の着尺セルも松阪屋等にも相當に入るらしい。例の着尺セルとして有名な葡萄セルや洋大セルの製造元で検査(但し服地類)をした時もある。又自慢にもなるまいが陸海軍の將星の方々、大臣閣下を工場參觀に御來場の節寸前にて拜類する事もある。大阪三越の服地仕入部の三十名位の人に検査の大略を説明したこともある。而して上司の許可の下にサンプルを集め様と思へば相當面白い蒐集が出来、同一工場の同一の製品についても一昨年と昨年と今年との比較對照も出来る。昨夏は婦人冬コート地の最初から最後工程迄の調査をやりにかけたが纏まらなかつた。それは晝間休憩の少時間を利用

するのであるし、毎日出られず多少の本を集めたのみにて數日後に工場に行つて見るとその時期は早や過ぎて現物はなくなり他のものに變つて居るのでがっかりする。私共の勤務は検査場では工場に併置が十四、五あつて同一検査場に約三ヶ月前後の期間に於て他の検査場と交代になる。優秀品を出す工場もあり下級品を出す工場もある。検査場は前述の如く毛織物の最後工程を施す整理工場に併置されてあり大きな處には十四、五名も居り小工場には二人の處もある。集合検査でないから検査場が交代する毎に新しい氣分になり前検査場とは異つた品物に出逢ふので過音かも知れぬが絲の検査よりは趣味多きものである。

然し汗を流しつゝ、仕事上より完全に三伏の夏を征服して居る。最盛期になると休日第一、第三日曜日と祭日のみとなり普通の日でも時間外勤務になる。他の期間は大体間物を検査して居るが何れの時期のものにても着用の約半ヶ月前に検査するのでその年の冬、夏、間期の流行共稱せらるゝものが大略的に前以つて判る事になる。

大抵の場合、流行とは人類の常に持つ虚榮心と好奇心、嗜好心等、新しきものを求める心理を利用して製造家等が販賣政策を施して前のものを極めて僅少に造り又は名のみを新しく變へて多く造つて之が本年の流行品也と名付けて宣傳大いに努めて市場に出すのではなからうか。換言すれば無理に流行を造るとも云へよう。仕立の工合は兎も角、服地には流行色なるものがない。

飛び離れた異様な感と興へるものが所謂最尖端をゆくとかになりはしないか。以前のグリーン系統の服地はもう見當らず褐色、紺色が可成り多い。

年々の希望なりし年産額一億万円目標は遙かに越へ昨今では二億万円に肉迫しつゝある。之を見て最近の躍進振りは明かである。一例には過ぎぬが當市附近の葉果郡地方の小作農の数は數年前に比し約七割の大激減になつて居る。現在の農家を大別すると自作農一二五二戸、小作農一四一六戸、自作、小作兼業二四三三戸となり、數年前純小作農が三千五百餘戸あつたのに比し約二千餘戸の激減を示して居るのと同郡地方の小作借地料金が各地に比し安い爲めらしいのと農家の經濟が幾分余裕のあるは勿論ながら最近好況の浪にのり尾西織物躍進の影響で本會川町を中心に郡一帯に織維工業の工場が續々建設されつゝあるに依るらしい。市及市外の躍進は實に素晴らしい。市愛知縣令を以つて定められた検査する毛織物とは幅員八十八釐(コールの限り六十八釐)以上、總經緯線數の1/3以上の毛織物を含むものにして、この毛織物とは純毛織物を勿論、毛とその他の織物を混紡したるもの又は毛と他織物を配合したるものを謂ふのである。故に毛の1/52と綿の1/40とを配合したるも毛織一本と謂ふのである。毛織物の検査上の種別は主にその用途と用途、布色等に依つて別けられ第一種、第二種、第三種の三區別となつて居る。第一種とは男子服地(オーバー類も同様)

でかり(比較的粗剛で太い)毛織以外の純毛織を總經緯線數の三分の二以上使用したるものを云ふこの場合、前記の毛、綿との配合は毛織一本と看做される。特別鑑定上には綿一本と看做される。大體に於て他種よりは綿質もよく製織され整理もよく染色の堅牢度も強い故に値も高い。

第二種とは婦人服地、兒服地、帽子地、又は廣巾着尺セル等に純毛織もあり他織維の混紡、混織品もある。一般に色合は美麗で組織にも種々ある。婦人冬オーバー地でアストラカンにて一着分百何十圓する生地をデパートで見つけた事がある。勿論、舶來品であらう。

第三種には前二項目以外のもの、例へば國防色のガリサーヤ、男子向の經緯又は

以上の方法は科學試驗法の中の脱色と光に對する染料の堅牢度の試験の原則である。第二、第三種中には之と異なる温度の時間のある。要するにバスの中に試験液を入れた試験管を入れてその中に規定量の可検布を入れて染料の染着程度や脱色工合を検するであつてその程度及耐光に於ける褪色工合等も第一種は他の種別よりも審査判定は稍々嚴重である。又幅に於ても縮度に於ても同様である。而して肥料の存在する時は第一種は不合格となる(規定の検出法による)。密度に於ても第一種は合、不合格の境界も程度高く例へば純毛物で經緯1/52の糸使用のサーヤは第一種は經緯一八本、緯一〇五本なるも第二種は經緯一〇四本、緯九六本或はクレネットでも純毛物で經緯1/52の糸使用にて第一種は經緯一八一本、緯一一八本、第二種は經緯一七一本、緯一一一本以上あれば合格となる。但し本數の境界は五種間である。オーバー地等の如き紡毛物は如何なる品種に限らず目方(方米量)に對しての強力規定があり強力試験器にて試験の結果規定以上あるものは合格となる。之も供試片の巾、長さに規定がある。

品種別	對酸試驗		對アルカリ試驗		耐光試驗	
	溫度	時間	溫度	時間	溫度	時間
第一種	攝氏八十度	十分間	攝氏八十度	十分間	攝氏八十度	五時間
第二種	六十度	五十分間	六十度	五十分間	六十度	三時間
第三種	八十度	十分間	八十度	十分間	八十度	五時間

検査するもの——に於てもその缺點表示數(その個所に白絲を結び付ける)も第一種は十米に一個、他種は六米に一個の割合を以て合、不合格を決定するもの例へば全長五十米ある織物にてその數が第一種は五ヶは合格、六ヶは不合格と成るが第二、三種は八ヶは合格、九ヶは不合格となる。

非常に多い場合は表示をしない、時もある。而してその原因によりて織段、原絲、整理等の不合格格名になる。又科學試験に於ても密度、アルカリ、強力等の不合格格がある。又科學試験検査と相反の混合せるものも出来る。

第一種 富士山
第二種 鳩
第三種 菊
輸出品 何れの種別も羊の四種の形態を模倣されたもので検査所名と合格の二字が入れてあり模様の線は何れも黄金色である。所謂金マークである。又兩反末マークの他に合格品に限る第一種は富士山、第二種は鳩、第三種は菊の兩反末マークと同模倣された小さい耳マークなるものを片側の裏面の耳の部分に二米毎に一個宛押捺する。故に

内地品にて切賣りして反末マークはなく其夫々合格品なれば其の種の耳マークが裏面に押捺されて居なければならぬ。反末マークも同様黄金色である。不合格品には前記の模倣された黄金色の反末マークは全然なく耳マークも同様押捺しない。而してマークは字のみにて検査所名に不合格の三字に合格、不合格共耳マークは押捺しない。

前述の如く検査の格付は合格と不合格の二格のみにて中間格付はない。何れの疵に於ても一つ規定を通過しないものは不合格品となる。が然し事情によりては再整理申請書を提出し検査場主任の代決を経て又受検出来る。この場合、検査手數料は前受検の時納入しても再整理申請のものに新しく受検するものとして納入しなければならぬ。之は染斑直し收縮直し織段補修等々である。不合格になれば値引きがあり缺點表示の數によつて何割か値引される。

兎に角、合格か不合格かの二格の中の一に格に格付されるのであるから検査格付に何人も慎重であり難し又責任の重大なるものである。而して減少にない事ではあるが検査後一年位経過してから検査格付に苦情が出る事がある。仲々油断は出来ない。尙ほ最近種々他織維が巧な紡績方法にて羊毛に混合されて居るので之等の織維の種類及びその量を鑑定して決定しなければならぬ。若し純毛か又は純毛に近い第一種に例へば現在検査中の冬オーバー地の羊毛五割と綿が五割(之は判り易いが)の半々混紡のものに當り士のマークを押捺したら如何。比較的種類より値が高いのでこれがその儘消費者各位の手に入つてオーバーを仕立てられたら如何なるか。勿論斯る餘りにも明かなるものは兎も角として二、三割から四割位混紡するものは相當ある。尙ほ純毛物——純毛ですぞ——は昨年の五割位ではなからうかと云はれ或る服地通の人(職員に非ず)からは三割位とも聞かされた。(實際? この話の根拠は絲の需要の工合から想像された様ではあるが)。故に昨今の検査には細心、綿密な充分の注意力を要する事となる。

工場内で工場人相手の検査であるが故に仲々難しさが日々繰返して行くのだから左程でもない。不審のある場合には同僚との合議制度、立會検査等もあり、難問は支所内の上司、又は實際、研究部(

部主任は母校紡績科第七回出身の大谷半人(商工技手)の指示を受ければよいのである。大阪にも府立の毛織物検査がある。その検査方法は當縣と同様であらう。然しマークの形は全然異なる。

この合格、不合格、殊に不合格のマークに於てマークを正當の理由なくして切取つた場合は縣令違反として摘發される。違反にはその他種々な事項もある。私も入所以來二年ではあるが一、二回この違反被疑事件の立合と調査(物件差押へと職取書作製上)に出掛けた事がある。餘りよい氣はしない。故に官僚的な態度で威張るではないが平常よりやかましく云つて未前に防いでやるのが業者にとつて親切であると思つてゐる。私共の使命は違反摘發ではなく縣下の毛織物の品質、技術の向上の助長と統制である。

前述の如く不撓不屈の精神を以つて躍進々々を重んじつゝある當地の検査であるが故にそれ以上の躍進の心境が必要である。検査官をして居ると自然心臓が強くなる。工場の手とするとのは幹部必要である。丁度ホーム、グラウンドで試合をする選手が實力以上の試合が出来れば工場内に検査品があつて加之、格付は前述の如く合格、不合格よりないので相當な眼と押しが必要である。検査官は押しが強いのが勝つとも云ふ人がある。然し押しが強いのは駄目だ。所謂經驗から割出し一點張りは駄目ではなならない。經驗が最も大切なるは言を俵にない。然し検査官をして居ると知らず(に)押しが強くなつて来る。私等も當地に來てから一押、二押、三押迄は行かなく共相當強くなつて居る。尙ほ當地は大工場や良品が出ると共に人心から云つて一番検査には厄介な所でもある。時と場合に相手によつては強く出なければならぬ。相當の權威を持つて居なければならぬ。この縣立検査所が出来て毛織物の統制と品質向上を目的とする第三者検査のある爲め數年前には比較にならぬ程、品質や技術が進歩して來た。然し時代の推移による業者各位の研究、努力、奮闘もこの躍進向上には大なる功があつた事は勿論である。昨年四國地方に出張した事は向上を賞讃された事もあつた。然し人間の検査であつて私共は全能の神ではない。唯、信念を以つてベストをつくしては居る丈である。

部主任は母校紡績科第七回出身の大谷半人(商工技手)の指示を受ければよいのである。大阪にも府立の毛織物検査がある。その検査方法は當縣と同様であらう。然しマークの形は全然異なる。

最近洋服地と云へば大体國産品で充分であるとの認識が一般に行きわたつた様である。實際貿易統計で見ても輸入額は二、三年では精々六百万圓乃至八百万圓程度に對し國産洋服地は昭和十一年では一億七千万圓に及んで居る。この國産洋服地の中一億四千万圓は愛知縣下の生産になるもので又その中の六、七割は當地地方即ち尾西地方の工場が製造して居る。この如く當縣としては重要工業なる故に縣は毛織物の品質向上とその世界的發展を圖る爲めに昭和六年一月以降品質検査の制度を設けて毛織物の各反につき嚴重なる検査を實施して居るのであるが然しこの制度の趣旨は未だ消費者各位並に取引業者各位に充分なる徹底を見て居ない様な點も出張の節直感せられるし又當検査所に於ても普及方法及手段方法も餘り簡便に於て居ない様な點もある。同窓生諸氏が當縣製の毛織物服地を御召しになつて居るならば必ず私共誰かの検査を経て居るわけになる。

愛知縣の毛織物は明治初年頃には家内工業式の規模なもので工業と稱せらるゝ様になつたのは明治三十七年前後で僅か三十有年の歴史を有するに過ぎないがこの間事業の盛衰は度々あるも日清、日露、歐洲の三大戦の一戦争毎に一期剋復の發展をなし當地方人獨特の不撓不屈の精神は今明かに表はれ（勿論風土の關係も好影響をなし）長足の進歩を遂げ、今やその年産額は一億八千万圓に達する盛況を見る様になり全國毛織物産額の六割を占むる重要な地位にある。

特に服地は急速なる發達の経路を辿り大正十一年の二十二万五千餘米から僅々十四ヶ年後ではその二百四十八倍の約五千五百萬米突餘（一億三千五百萬圓餘）を突破する驚く可き躍進振りを示し全國服地總生産の八割を占め輸入を完全に近き迄防遏し得たのみならず更に海外市場に進出して歴史的の勢力にならん事を示し先進國の英國、獨逸をして大恐慌を感ぜしむ様になり比較的安價な日本製の毛織物に對して種々なる手段方法を以つて壓迫を加へんとして居る。綿羊を日本の風土に適應して良質の毛を得られる様に品種改良して自給又はそれ以上の量を得られる様になつたらよいかと思つて居る。昭和十一年には當縣の總生産額は二億五千萬圓餘に達し服地は約二億萬圓と云ふ驚く可き數字となつて居る。大正十四年以降に於ける全國と愛知縣との毛織物生産額の比較を數字を以つて示して見

Table with columns for Year (大正十四年, 十五年, 十六年, 十七年, 十八年, 十九年, 二十年, 昭和元年, 二年, 四年, 六年, 八年, 十年, 十二年, 十四年, 十六年, 十八年, 二十年), Production Amount (愛知縣), and Percentage (百分率). It shows a significant increase in production from 1925 to 1930.

あつて加工所は加工を依頼され搬入された故を以て唯一、加減に加工を施すことである。時々物凄程の色遣ひかと思はれる様な織段のある織布を加工に出されるがその補修の結果は話にならぬ位位な生地を汚したに過ぎないと思ひ度位なものがあつて居る。之等は却つて染直し（濃色に）の方がよいと思ふ事もある。

て居ない事を明言して置きたい。但し私共は工場相手なるが故に休日第一、第三の両日曜日と祭日丈で仲々忙しい事を御承知願ひ度い。

- List of names and titles: 岡 豊治郎, 大谷 隼人, 藤井爲五郎, 鈴木 一郎, 近藤 義信, 村橋 信夫, 細野 政吉, 淺野 佐門, 川久保 元, 福島 庸, 手 全, 助 全, 祈りつゝ。(七、三〇)

講話ところへ 九

一 比喩 警句 諧語集

千葉 高 島 生

◆センケンの明

或る人が藪市場へ出荷して一貫匁四圓五十銭に仕切られましたが、當日の買馴相場に比し五六十銭も安いので、一先づ販賣を中止致しました。そして一時間ばかりかゝつて選購を仕直し、再び藪に載せました。今度は五圓二十銭に賣れたさうでありました。而して此人の出荷数量は十五貫匁で、その中から選除藪二貫匁を出し、之を貫三圓で賣つたと云ふから、藪の相場で處分するより結局六圓十銭の利益を得たことになりました。即ち、

450匁×15=6750匁…選除藪の収入見込
520匁×(15-2)=6760匁(藪代) 計7360匁
300匁×2=600匁…選除藪代
7360匁-6750匁=610匁…利益

だけの利益が僅一時間の手間で生れた譯であります。センケンの明とはコンナ事を云ふのでありませうか。

◆塵も積れば

塵も積れば山となると申しますが、少量の塵では人に顧みられず、何の価値もないものゝやうに見えても、之を集計すれば驚くべき嵩となり、相當の効用を齎すものであります。

例へば日本内地の人口を六千五百万人とし、各人が一食一粒の米を無駄にするるとすれば、一升を六万五千粒として一年に二万七千四百七十五俵となり、之は裕に一個師團の兵を養ひ得ることとなり

ます。此間の新聞に、南瓜と西瓜の名産地、千葉縣匝瑛郡共和村農會では、夏前から全村に布告を出して、平けた南瓜と西瓜の種を取りまとめ懸賞にして居るが、五十餘石がもう集つた。支那料理用として

石百圓には賣れるから五十石で五千圓、役員は鼻高々——どうです、小さい様でも目のつけ所は大いいのです、とありました。養蠶の方にも此の種のことがないものでせうか。私は藪の持寄りと云ふことを考へてみたいのです。

藪は生藪重量の百分位あるものでありまして、相場は時に依り又品質に依つて色々でありませうけれど、相當量を共同販賣すれば大体藪一貫匁の半額には賣れます。千葉縣の藪産額を二百万貫とすれば、藪産額は二百万貫となり、一貫匁二圓で賣れば四萬圓、三圓で賣れば六萬圓の巨額に達する譯であります。それを個々にすれば、五十貫獲りの養蠶家は藪五、百匁、之を屑屋に二東三文で拂つて了つては餘り価値を感じないが、組合員が持つて養蠶實行組合から藪産額を組合員に物納するやうな方法を講ずれば、藪産額だけで負擔金を賄ふことが出来る譯であります。

尙序ながら考へて置きたいことは、産額額の増減豫想は、掃立量の増減ばかりでなく、養蠶家の意氣込如何に依つて左右されることが大きいと云ふことです。即ち藪相場の見込の強弱に依つて蠶兒の取扱に粗粗を生ずるのは人情の自然でありますから、假に養蠶家毎戸一頭宛の蠶を遺失すれば全國二百万戸の養蠶家は二百萬頭となり、百匁二百粒として二萬貫の藪が減産する譯であります。

◆最少養分律

桑は窒素燐酸加里の三成分の量を、例へば五—二—三と云ふやうに、一定の割合に要求するものであります。然るに此割合を無視して勝手な割合に施すとしたり、たとへば一若くは二つの成分ばかり増して施しても、利用される分量は三成分の比率の保たれる範囲内だけであります。此現象を肥料學上「最少養分律」と呼んで居ります。尙分り易い例をとつて説明するならば、ご飯を炊くに米一升、水

一升二合、石油二合を要するものとすれば、此場合米を三升に増して水や石油を元のまゝにして置いたでは良い加減のご飯が出来ないのと同じ理窟であります。尙ほご飯が水加減火加減に依つて或は硬く或は軟くなるのと同様、桑も三成分の多少に依つて或る程度迄は素質に變化を來すものであることを注意せねばなりません。窒素を過多に施用した桑は、丁度水の多過ぎたご飯—お粥のやうなもので量が増えるが、腹ごたへがないと云ふことになるのであります。

◆時間嚴守

昭和八年一月三十日、千葉縣に於て開催された養蠶實行組合大會の決議に、現下蠶絲業ノ趨勢ニ鑑ミ、養蠶實行組合ハ、良繭安價生産ヲ以テ第一義トナシ、之が達成ヲ圖ル爲、左記事項ノ必行ヲ期ス

- 一、時間嚴守
- 二、産額規格統一
- 三、桑園間作綠肥
- 四、基本金造成

とあります。養蠶業者の會合に於て、技術的又經濟的問題に就て論議されることは普通でありますけれども、時間嚴守と云ふやうな精神的の問題を、養蠶實行組合の必行事項の第一に掲げたことは、洵に奇抜であります。併し今日の如く世態が複雑になり各種會合が多くなつて來ては、労働時間を減殺されることが多大でありますから、どうしても時間嚴守に依つて無駄を省くことにしなければ、折角組合の組織を整備しても、それが却つて農村を災することになりますから、養蠶實行組合が先づ時間嚴守の申合せをしたことは、サスガ佐倉宗吾を産んだ千葉縣だけあつて目的のつけ所が違ふと、敬服せざるを得ないのであります。

養蠶實行組合が時間嚴守を勵行出來れば諸會合にドンナに無駄が省ける事か。又講話會にしても十分聴くことが出来る

し、手不足の指導員が能率をあげる上からみても、甚だ好都合であります。六月十日の時の記念日に、大阪府で表彰された人に、三島郡新田村の産業組合理事山口寛次郎といふ人があります。この人は數年前村長時代に「農村更生は時間嚴守から」のスローガンを掲げ、公私の會合に徹底的時間勵行を始めました。その結果、婚禮に花嫁が定刻に間に合はねば、花婿側で花嫁空席のまま式をあげ、葬式に坊さんが遅刻すると、世話人で構はず葬送し、坊さんは泡くつて墓場にかけてつけるといふ、嘘のやうな事實まであつて、最近では村に「遅刻」といふ言葉がなくなつたといふ愉快な記録を持ち、しかも納税日になると太鼓を合圖に一人もれなく三時間以内に納税する美風が養はれてゐるさうであります。

千葉縣に於ても、山武郡増穂村北飯塚養蠶實行組合の如きは、盤木を打つてから二十分以内に集合すること、若し遅刻したら罰金二銭を徴収することの申合せがあつてなかく、よく勵行されて居ります。

◆人の和

孟子といふ書物の中に「天ノ時ハ地ノ利ニ如カズ、地ノ利ハ人ノ和ニ如カズ」とあります。天の時とは自然の時の意味で、時日、晝夜、寒暑等人の行動に關係する時を申します。地ノ利とは土地の便利と云ふことで、攻め又は守るに都合の善い地勢を申します。人ノ和とは人の氣がそろふこと、人の心の和合を申します。即ち孟子に謂ふ意味は、戰をするのに、天ノ時や地ノ利を得るよりも、人ノ和を得ることが一番大切だといふのです。この言葉は移して以て養蠶の經營にも當嵌めることが出来ようと思ひます。即ち蠶を當てるには、氣候の良否(天ノ時)や設備の完否(地ノ利)よりも、家内が和合して一致協力仕事に精進することが第一の必要條件であります。反當多收穫王の荻野嘉一氏が實行要領の一つとして「家庭圓滿主義なる事を掲げて居るのは、我が意を得て居ります。又養蠶實行組合にしても、組合員の和と云ふことがなければ、如何に諸規程や諸帳簿を整備して居ても、優良組合と稱することは出来ません。

◆うるさい獎勵

昔徳川幕府の士に太田南畝と云ふ人があつて狂歌を作り、滑稽諧謔、人を絶倒せしめました。四方赤良、蜀山人などと稱するものも此人のこととあります。家齊將軍の時代、老中松平定信が出て頻りに文武兩道を獎勵致しましたので、放浪自恣の蜀山人は之をうるさいことと思ひ、世の中にカ(歎斯)程うるさいものはなしアンブ(文武)と泣いて夜も寝られず

と一首作つて、幕府の御叱りを受けたと云ふ話があります。今日の農村を見るに夫々の方面の勸奨に依つて色々の組合や團體が組織され又色々の事柄が獎勵されて居りますが、觀やうに依つては、農家にとつて随分迷惑な、うるさいことと思はれます。併し何れも必要があつて出來たもので、又他人事にあらず農家自身の利益増進のために獎勵せられるのでありますから「我が物と思へば輕し笠の雪」の考を以て、徳助がらす、蜀山人のやうな皮肉を言はないで貰ひたい。又夫等の組合や團體を經營するには、幹部にはかり世話をやかせないで、所謂「一人一役主義」で、組合員全部が一役づゝ買つて出ると云ふことにしなければなりません。

孟子といふ書物の中に「天ノ時ハ地ノ利ニ如カズ、地ノ利ハ人ノ和ニ如カズ」とあります。天の時とは自然の時の意味で、時日、晝夜、寒暑等人の行動に關係する時を申します。地ノ利とは土地の便利と云ふことで、攻め又は守るに都合の善い地勢を申します。人ノ和とは人の氣がそろふこと、人の心の和合を申します。即ち孟子に謂ふ意味は、戰をするのに、天ノ時や地ノ利を得るよりも、人ノ和を得ることが一番大切だといふのです。この言葉は移して以て養蠶の經營にも當嵌めることが出来ようと思ひます。即ち蠶を當てるには、氣候の良否(天ノ時)や設備の完否(地ノ利)よりも、家内が和合して一致協力仕事に精進することが第一の必要條件であります。反當多收穫王の荻野嘉一氏が實行要領の一つとして「家庭圓滿主義なる事を掲げて居るのは、我が意を得て居ります。又養蠶實行組合にしても、組合員の和と云ふことがなければ、如何に諸規程や諸帳簿を整備して居ても、優良組合と稱することは出来ません。

圍爐裡會員の アルバムに就て

竹内善吾

養蠶第十四回卒業生の連絡協会のため発行してある會誌を圍爐裡と言ふ。既に八號を發行し九號を發行する所である。この種會誌としては内容に於て永續した事に於て白眉である。

この圍爐裡會員、即ち養蠶十四回生の待望の卒業十年のアルバムがこの程出来上つたのである。然し延遷又延遷豫定の昨年十二月(これは少々掛價はあつたんだが)は既に過ぎ本年三月一杯には必ず御手許送るなんて相當日ハバつた言葉草を言つてそれが六月末になつたんだから世話は無い。責任者としては全く申譯無い極めて御寛恕を願ふ次第である。

元來こう言つた計畫は全くどのクラスでも計畫してゐる事でその事では決して稀らしくないが然しこれを實現したクラスは五指の内だらう。然してその出来に至つては上出来と稱し得るものは俺の心臓が言はしむる譯ではなく寧ろ極めて謙遜して然かも最も「上出来」は我が圍爐裡會員のアルバムだらう。——この男ソートの男である。扱てこんなに出來のアルバムではあるがこれが出来上る迄は仲々クラスメートも相當聲援してくれただんだが扱て出来上つて仕舞つたら手紙を寄封して慰めてくれた者は竹内孝三君と樋村君、中島君丈(七月廿八日迄に於て)である。一年間に餘るアルバム編輯は決して生優しいものでは無い。だから禮を言つて貰ひ度いなんてシミツタ根性は毛頭無いが心からの批判の一、二位には接するの期待は持つてゐたものだ。クラス中寫眞に興味を持つた者は數人には留るまいから。少くも俺は俺の有する藝術的良心(?)に照して相當の出来であると思つてゐるんだから。(少々強くなつて来たね)

扱てそこで少々アルバムの作製についての解説を試みて置く。

一、アツクに就て

寫眞の藝術的善悪は兎も角ズグシにも一見批判がまじき言辭の材料を與へるのはアツクの体裁である。大まかには本棚に立てられるとか色々考へたが結局それよりも見た感じ本位にした。内の紙色は黒クリーム、稍模倣付等數種比較研究して見たが黒は從來から用ひられてゐて寫眞は生かすが感じがやゝ暗いしクリームは明るいが寫眞の調子を殺ぐ嫌がある。結局鼠色の稍クリームの勝つた色にしたがマア悪くもあるまい。寫眞は両面に貼るうかと思つて見たが見るに便利だし將來裏へ貼るにも良い様に半面にした。半面ならモー少し薄手にと經濟も考へたが濼澤序に厚いのにした。却つてその方が良かった様だ。

表紙のデザインには最も苦心したが結局一番悪かつた。學校の帽子の徽章も餘り智慧が無き過ぎるし卒業の時の烏帽子に鈴蘭も氣が利かないし實は最後に校長先生に「面影」とも書いて頂いて金文字にしようと思つたが先生には三度も寫眞に出で頂いた上なので遂御願するの氣が引けて實現しなかつたがこれが一番良かったらう。二月月近くも考へて學校の本館と烏帽子をデザイン化してくれと言ふ事であんな事にしたが精々六點位しか呉れられまい。

二、寫眞について

○扉の寫眞は三年間朝夕親しんだ千曲川の夕方で良い寫眞である。陽の沈んで行く山は小縣と東筑の嶺千曲山脈の一部、龍山と稱してゐる。本當は日中良く見るとアルプス連山が見えそれに沈んで行くのである。右の方の一寸飛出した山は冠着岳で一年の時見學に行つた青木風穴はこの山の中腹である。

には無かつたんだがアルバムの完成が晚れた爲めの怪我の功名である。俺のこちらへ轉任の際この寫眞を使はして頂く事の御承諾を得て来た。

○第三頁は校長先生の最近(三月末)の御風姿である。校長室でお願したものの、益々體健たる御元氣に接し吾々子供達には全く心強い次第である。

○第四頁は現正門で官舎の西側の線を南北に延長した雨天体操場との間にあるボストの後が門衛詰所その直北側が一間と離れずに雨天体操場である。

○第五頁は我が三年間御厄介になつた先生方と、養蠶部の關係職員である。倉澤さんと須田さんが貼り出しになつたのは体裁上もだが不味かつた。然し撮影の時はどの位心配した事か。最初松岡君と先生の所を一つ御願して目を決定して来た所、その當日は生憎の大雪でオジヤン。次に松岡君と相談したがどうしても忙がしくて駄目だと言ふ。仕方無く山口君に半分も奔走して貰つて班食体を利用して出て頂いたんだが本當に壽命の縮る思ひであつた。こんな詰らない事に厭な顔もせず喜んで出て下さつたのは唯感謝の外は無かつた。「教子の云ふ事だから」そんな氣持で皆の先生が顔を貸して下さつたんだと熱々有難く思つた。舊正門を入つた所、皇太子殿下(天皇陛下)御手植のヒマラヤシスターの東側である。

○新講堂は上が全貴、下が内部だ。相當設備の良い建物である。色々な式や千曲會の代議員會等もこゝでやる。

○上田公園は武徳殿手前の高い石垣の上から寫したもので、日の丸の旗の前にある鐘樓は元市役所にあつた午砲の合圖用のもので國旗は上田小學校本校庭のもの、三吉先生銅像もなつかしい。五月になつてから武徳殿は取り毀されてあそこは清々して仕舞つた。それは招魂社の東南側に近代の立派な武徳殿が出来たからである。

○別所觀音は運平さんや晴作さんの所を驚況視察に行つた時は大抵参拜したものだ。俺の家から徒歩二十分と云ふから繩張下である。左端の娘の顔が判然しないのが残念だが見へたらダー物かも知れぬ。

○千曲會館、先月の時報にもあつた通り官舎の東に庭球コートが作られ其東南端に接して西面して建てられてゐる。

○上田城は説明を要すまい。城の西の崖の中腹から寫したもので今迄の繪葉書寫眞よりは稍良い。

○烏帽子岳の寫眞は逆も良いと思つてゐる。赤外寫眞だ。廿五週年の際學生が三井に據らせて土産用に賣らしたもので常田池や染屋が手に取るやうだ。化學の屋上から寫したのである。

○日本的になつた菅平もその昔は上田の菅平でしかなかつた。天長節の日前前だつたか尺八を持つて行つて四阿山頂で君が代を吹奏したとか云つた話があつたが恐らく菅平を通つて行つたらうけれどその頃は隔世の觀がある。カフエーもありホテルもある。文理大の研究所、鐵道省山の家、文部省の研究所とやら、母校の庇宇亭、庭球場、ラグビー場、凡百の文化施設が備はつてゐる。冬はスキーで全國のファンを狂舞せしめてゐるがボスである。赤外線寫眞だ。

○校長閣下銅像除幕式は廿五周年の際のもので稀らしくも無いが参列しなかつた人のために入れたものである。

○淺間山の爆發はフランクの「新しき土」でも有名である。何時の爆發だつたか記憶もないが三井寫眞館の東の窓から寫したものだ。

○校庭の一部はアルバム中特に藝術味のあるものとして春原君に頼んで撮つて貰つたものである。藝術的に見て良い出来だらう。春原君に感謝せねばならぬ。支那から製圖室にレンズを向けて校長先生の銅像と玄關側のエニシダが

の雪圍を扱つたものである。雪圍は第四頁の先生方の寫眞で見る浦生先生と古谷先生の間に寫つてゐるのがこゝでは全然感じを別にしてゐる。

○舊正門は實は新正門と對照的に貼らうと思つてゐたが都合で別にした。新正門は玉屋の東の邊から東面して寫してあるし舊正門は反對に舊正門の一寸東によつた所から西に向けて寫してゐる。生垣のあつた堤は全部取り去られてゐるので新正門を見ると様子が少し變だらう。新正門の電柱の根元の所に生垣があつたんだ。想像してくれ。

○校長先生御家族、蠶二回生のアルバムにも入つた筈。倉澤教授の輪旋で先生の御承諾を得て入れさせて頂いたもの小林寫眞館の撮影である。

○銅像前のクラス生のは又と無いこゝした機會の寫眞は得られまいし全員居ないのは已むを得まい。モー一枚の時撮つたがそれは依田君が入つてゐない。この寫眞にはあの時集つた者で中澤君と永井君が何かの都合で顔が見えぬ。今は既に依田君亡し。悲しき限りである。

○學校のバーズアイ、ビウで小牧山から春原君が苦心して寫して引き伸ばしたものである。染屋からも見たがどうしても駄目だつた。一番左に白く見えるのが千曲會館、コンクリートの建物の四角い窓が整然と見えるのが書庫その側のが講堂、圓場の元學生の頃の控室の西に見えるのが倉澤教授の居室で一部グリーンハウスになつてゐる。

以上解説如件である。巻頭言はこちらへ来て碌々推敲もせず書いたので全く拙文で恐縮である。特にミスプリントがあつた中に三字もあつていよゝ興ざめの体である。歎げても詮無き事乍ら日時からすればこのアルバムの完成してからはあるが遂に一人依田君の逝去を見る。寔に悲しみの極みである。依田君亡き我々も故人の意志をうけついでクラスの連絡協調をはかり、然して全員少し宛でも依田君の分まで働いて彼を慰め様では無いが。(七、二八)

母校ニユース

中村恒雄氏退職 自動車運転手として 會計課に勤務せられし雇員中村恒雄氏は 御病氣の爲め七月十二日附を以つて退職 せられた。在職期間は四年半である。

紡織科職員對郵便局庭球戦 七月二十 日午後四時半より母校コートに於て紡織 科職員對郵便局の庭球戦を行ひ左記戦績 にて紡織科職員が勝つた。

第一回戦

- 松尾 町田 1 3 野口、山寺
松尾 成瀬 0 3 櫻井、中澤
町田 齋藤 0 3 玉井、小松
小松 倉島 0 3 香山、今井
傳田 齋藤 2 3 岡、玉井
四方、長尾 0 3 湯原、櫻井

第二回戦

- 小松 倉島 1 3 玉井、小松
松尾 成瀬 2 3 香山、今井
傳田 齋藤 3 1 湯原、山寺
町田、長尾 0 3 岡、中澤

上田蠶絲専門學校々々友會々歌募集

校歌は歌詞、歌曲共に嚴肅である爲めに、茲に應援歌式のものをもほしいと云ふ希望が盛んになりました。それで校友會員の作詞による校友會の歌を作ることにしました。次の寄稿規定御承知の上多数御寄稿を御願ひします。

- 一、募集 範圍 校友會員(學生、千曲會員、職員)
二、歌詞の内容及び調子 學生生活、蠶桑スピリット、環境、千曲會員の活動状況等を適宜に案配作詞すること。調子は應援歌式、節數及用紙は注意す。
三、原稿締切期 昭和十二年九月十五日
四、原稿送附場所 校友會文藝部
五、選 曲 者 北川冬彦氏
六、作 曲 者 橋本國彦氏
七、懸 賞 者 一等一人(金二十圓)、二等二人(金十圓宛)、住作十人(校長の訓示、校歌及び校友會々歌を吹き込みたるレコード一枚宛)

昭和十二年五月四日 上田蠶絲専門學校校友會各位

會費領收 (七月卅一日現在)

Table with columns for names and amounts. Includes sub-sections like '昭和十二年度會費納入者' and '未納會費納入者'.

蠶絲學雜誌原稿募集

謹啓 炎暑難凌候處益々御清榮之段奉賀上候却設千曲會學術機關雜誌...

- 一、雜誌内容の梗概 (一) 報文(蠶絲學、纖維學及同經濟科學に關する原著にして歐文又は和文の摘要を附すること)

附記 猶報文、說苑、綜説及資料の御投稿に對しては別刷五十部を贈呈すること 昭和十二年七月 日 上田蠶絲專門學校千曲會 蠶絲學雜誌編輯委員

別項千曲會學術部より廣告せられました如く 蠶絲學雜誌は内容に一大刷新を加ふると共に...

本會記事

本會日誌 七月八日 宮下京三氏(蠶十二)逝去せらる。電報にて弔意を表せり。

向上資金中へ御寄附

本會向上資金中へ左記の通り御寄附せらる。洵に感謝に堪へず。御厚志に對し本紙上を以て御禮申上ぐる次第なり。

叙任辭令

母校之部 七月十二日 中村恒雄 願ニ依り雇ヲ免ス 七月二十日 培眞

御逝去通知

本會々員宮下京三氏(蠶十二) 沼津片倉蠶種製造所勤務の同氏は永々病氣の處養生相叶はず七月六日遂に逝去せらる。



御逝去通知 (左は宮下氏の近影である) 本會々員宮下京三氏(蠶十二) 沼津片倉蠶種製造所勤務の同氏は永々病氣の處養生相叶はず七月六日遂に逝去せらる。

蠶絲學雜誌購讀募集

別項千曲會學術部より廣告せられました如く 蠶絲學雜誌は内容に一大刷新を加ふると共に...

蠶絲學雜誌編輯部より

蠶絲學雜誌十卷一號は編輯内容の大刷新を起し印刷及販賣を上田市坂井田町生絲の國社猪坂直一氏に委任する旨本紙前號に廣告いたし原稿募集をいたしました。

弔慰金報告

故依田彌亮氏弔慰金第三回 金貳圓也 鹽原克巳 市川龍哉 岸勝彌 西本朝弘 野澤司馬 寺島眞英 前田雅弘 鈴木玄九 右合計金拾貳圓也 高木三治

依田兄を惜しむ (二)

竹内善吾

養蠶第十四回生の生物研究会で依田君の發表したもので記憶してある事は何十種類と言ふ小禽の卵についてのものである。植物學者依田は又時に若い動物學者でもあつたのだ。小禽の卵(一般に鳥卵)の一方が尖り片方が鈍頭を成してあるのは親鳥が抱卵する時に産卵場所は大体凹地をなしてゐるか(巢も同様)親鳥が卵を静かに動かすと皆尖頭を内面にして放射状に並びどの卵の胚にも一様に熱が加はるに便利のためである。こんな風な説明だつたと思ふ。何鳥か一寸忘れたが青い稀らしい卵を見せてくれた。蒲生教授の斡旋でアボットのジエネラルバイオロジ

ミクロロジを特に丸善から買つたのも我クラスの生物研究会の仲間の仕事だ。上田中學に學生を主体とし博物研究会(小泉、横澤先生等音頭取り)にも連絡を取り色々心配してくれたのも主として依田であり山崎君も何れと奔走してくれた。三年の頃だつたらうか佐藤(利)教授に鑑定して貰つたのは洗濯屋で綺麗に五百回出して買つたのは洗濯屋で綺麗にクリーニングした稍長目の眞白な實習着を着て、その新しい顕微鏡を持つて生物學教室の南側を歸るスマートそのもの、依田の傍がまだ眞新しい。

依田君の側面 依田君、山崎君、松岡君は卒業して學校の助手に残つて依田君は蒲生教授、松岡君は高橋先生(?)山崎君は井上教授と夫々の仕事を御手傳してゐた。俺は四月一日に松本五十聯隊に入營し翌年一月除隊して四月一日から一昨年亡くなつた小林君や中村君と助手に残り仕事は倉澤教授の御手傳してゐたが居室は山口、依田、永井の諸君と一緒に今の宮坂君の室だつた。胎動會と稱して緑町の新風堂

からモナカを毎週一、二回は必ず買つたりその他アマダを引いたりして無暗で糖分の缺乏を叫んで股收に餘念の無かつたのもこの頃で本人は俺だつたかも知れないが良きバトロンは依田だつた。時恰も蒲生教授の御病中の事とていや全くソトトのものであつた。ほんとうに俺達甘黨にも荷擔して面白く過ぎてくれた依田の圓滿さに感謝と言はうか申譯無いと言はうかいや、懐しき限りである。小見、山本、樋口と言つた先輩や井上石倉、高橋先生方の始められた甘茶會と言へば趣味の寫眞として決して東京一流の展覽會にヒケを取らない權威あるものである事をカメラの主幹であつた高桑勝雄氏等が始終口にしてゐた。俺が養蠶部へ厄介になつた頃は依田の寫眞熱が相當盛りを歴してゐた。カメラや朝日カメラの入選寫眞に就いて構圖がどうのハイライトがどうのキヤッチャイトとハイライトとはどこか違ふのと並の休等は良くそんな話が出て秋の會への力作に摺りをかけてゐる状態。指指と人差指で圓形を作り片目をツツつて一寸した景色をこの圓形からフアインダー代りに覗いて見て「どうだ繪になるか?」つて言ふ調子(これは故高橋先生の良くやつたナエヌチユアらしい)で仲々寫眞熱は旺んなものだつた。こんな仲間の間で一番上手だつたのは誰が何んで言つても山口君だつた事は疑ふ餘地は無かつた。恐らく依田をして所謂藝術寫眞の何物なるかを知らしめ更に熱狂的ならしめたものは依田の環境と天性にもよらうが山口君の力は小さくはなかつたらう。高橋先生と良くカメラ旅行に歩いたものだ。寫眞雜誌カメラに入選したのは依田を一頭少々天狗にしたものである。始め入選した寫眞は田中驛から鳥河原(北佐久)へ行く途中の千曲川に懸つた橋の一寸手前の所にある農家を主として、子守が前の通りを上つて行く所を扱つたものだつたと記憶してゐる。その他まだ一、二點入選し

た筈だ。助平根性の俺も寫眞に手を出したが大衆になつた依田は植物を教へる程親切では無かつた。北澤、山口、若林、間島と言つた諸君に手を取るやうに教へて貰つたのがなつかしい。十一月の甘茶會には何から何まで取りきつて寫眞の先輩山口君をソツクアウトして宮島さんや關口さんへの交渉や梅花堂や飾露の心配さてはプロと斡旋これつとめたものだ。華人瓜を籠に入れた静物や白く上品な水呑のあつた静物がこの時の出品では無かつたらうか。

俺が助手になつて盛んに喧傳したものに尺八がある。あの頃の俺を知つてゐる者は無鐵砲の尺八熱にあゝあの頃かと微笑ものだらう。山口、若林、中村、依田、永井、間島マア數へ上げたられこれ以後に於ても十指を屈せねばならない。あの少々出齒の依田が竹を始めて四年の四月三日に開いた都山の大演奏會には出演もし又プロの作製からホスター(若林一朗君にデザインして貰つた。依田の斜旋だ)の事。それに二人でプロへ刷りこむ廣告取りは苦しい事ではあつたが一緒に終始努力してくれた。

東京の依田君 蠶絲會に行く事については俺に色々相談した。それから高橋先生にその前に相談し最後に猪坂さんを訪ねた。その間に俺の工作もあつたが書くまい。ほんとうに東京へ行き度い氣持が十分見えてゐたが誰かにハッキリ言つて貰はねば決心し兼ねると云ふのが依田の心境だつた。だから蠶絲會の内容や東京の生活について猪坂さんを通じて話して貰つたのだつた。依田が東京へ行つたのは四年の五月頃だつたらうか。倉澤教授の心からの斡旋で助手の俺が岐阜、愛知、静岡、神奈川と校外實習生の實習先へ御禮と監督を兼ねて視察に出て東京の依田の下宿を訪ねたのは確か四年の七月十六日だつた。一体依田が東京へ行くについて心配した事は依田(多分八〇位では無かつたら

うか)で暮しが立つかと云ふ事だつた。上田では五十五圓の俵給で家から二〇圓位貰つたと云ふ。ナニ東京には永井、内藤が五十五圓内外でやつてゐるじやないか。連中と同じ所にゐて同じ暮し方をしたら二〇圓位は餘る筈だ。自分でどんな理窟つけてもこれで見りなかつたら費澤が過ぎてゐるんだ。マア内藤、永井の下宿へ入れ」と云つた譯で色々都合も良く日暮里驛近くの小高い所でお宮のある側吉澤アパートに三人相接した部屋にゐたものだ。東海道を廻つて神奈川の試験場から新宿へ出て日暮里驛の三人のアパート前に出た時、開け放した二階から「ヤア善吾サン、良く来てくれた。マア良く来てくれた」と全くデツカイ聲で怒鳴つて殆んど狂喜亂舞の体で俺を歓迎してくれた時の笑顏、あのうれしかり様、思ひ出すと目頭が熱くなる。恐らく俺は一生忘れられまい。間代は壘一壘三圓位の事から、東京人の私生活は廣つて(一)ある話から、ボケツトマアを離せない事、一晩語り明した。内藤、永井が東京人の先輩として相當茶々も入れたものだ。あの日は丁度東京の宇爾盆で十六夜の月があつたのが忘れられない。それから依田が上田にゐた時下宿してゐた自家のIさんから手紙が来てゐて「どうしたもんか」と色々意味のとれる言葉で話しかけたものだつた。

其後吉澤アパートは依田が堀内へ行き内藤、永井が夫々田端、上野と去つて俺に縁のない物になつた。堀内の宿へは多分六年の農學會に出席して厄介になつた。前の晩には堀君(絲十四)が泊つたとやら云つてゐたが東京でも良く知人の面倒を見てくれた。

書けば際限がない。思出は限りなくこれを思ひあれを考へ合せば懐しい事許りどうした事か俺は依田の一舉手に至るまで生々しく頭にコピリついてゐる。(尤も俺は詰らん事までも何時迄も覚えてゐ

て、いやな氣持になる事もあるんだ)それ丈俺は厄介になり迷惑もかけたんだ。それが病氣になつてからは餘り手紙も書かず依田もどちらかと云へば筆不精でこちらからやつても呉れない事が相當あつた。そして在京の竹内、内藤、永井の諸兄よりは會へる機會も減り一昨年廿五周年記念の時別所の柏屋別荘で談じたのが會つた最後、今年の正月松岡君の上京を機に心許りの見舞をしたのが俺と依田の最後のカ、ワリであつた。

凡夫凡情の迷に二つある。一は見惑であり一は思惑である。前者は理惑とも稱し見解の相違による惑である。見解、意見の相違なるが故に語せば判る種類のものであり何時かは釋然とする時がある。だから佛者は「頓斷如破石」と道ふてゐる然るに後者、思惑は感情の惑なるが故にこれを解く事は誠に難く釋迦は「漸斷如藕糸」と嘆じてゐる。藕糸とは蓮の糸の事であると註してゐる。

ほんとうに依田は死んだんだらう。死亡の通知も受けたし弔電も打つた。兄さんからは弔電に對する挨拶も頂いた。松岡君と打合せて郷里の送靈にも參列して貰つた。だから慥かに死んだんだ。だけれど凡情、凡俗なるが故に俺達をんなに親切に世話をし友達を明期にしてくれた依田の死は考へても矢張り「如藕糸」である。

釋迦も死し基督も死し孔孟も皆死んだ死んで既に三千年を閱し二千年に垂んとしてゐる。然し乍ら肉体は亡んでも未だに釋迦も孔孟も人類の爲には生き、存在してゐるんじやないか。人、生れて死せざるものが何處にあらうか。それが人間、いや萬物の本然の相である。ほんとうにそれに異ひない。

あゝ然し乍らあんな親切の良い男がどうして死んで仕舞つたらうか。依田よ俺の心の中にはオメーが生きてゐるんだ。俺はオメーの分まで働くよ。(五、七、三)

明德元亮居士の思出

上野 朴水

夕食後の一時を傍側に腰を落して冷たい大地を踏んで見た、とたんに鳴き止んだケラの戀唄が又ルルル、ルルル……

鳴聲はミズだらうと云ふ事からして依田君やTやH等のグループで論じた事がある。其時山崎君がミズは昆虫でないから鳴かないんだ。あれはケラの鳴聲だと云ふ事で半信ケリがついた事がある

梅雨は開けるのか未だなのか蛙の鳴聲のみやかましい。空には薄雲が流れておるのか螢光の様に點滅する淡い星のまたまき。その光を追ひ乍らぼんやり依田君の面影を心の畫布に描いてみた。とたん、星の周りが急に明るくなつた瞬間依田君のあの忘れられない懐しい面長の顔が現れた。あゝ依田君！私は思はず腰を浮かして叫んだ。確に叫んだと思つてゐる。

人の心の畫布に強く刻まれた映像は反射的に無限のカンバスに(距離が計り得ない故敢へて無限と云はん)對照的に現れるものらしい。勿論瞬間的のものであるが本人には相當長時間の様に強く印象付けられる。その時以來夜になるといつもy君が其處にゐる様な気がする。幼き日の人が死すると星になると云ふ事をそのまゝに、依田君の幻映は私に思出を書き事を書き促してゐる様に感ぜしめる。

y君は身柄は大きかつたがとてでもデリケートな体質であつた。繊細な曲線が組立てられた面長の顔は特に印象強いものがある。馬の顔を見てるとy君の顔が浮び出る。動物實驗にバツタの解剖を教へて呉れたのが後のy博士、ボールドにバツタの頭部が描かれて行くアンテナが描かれ、ば出来上る頃、室の片隅からよく似てゐるな！誰もそう思つてゐた時だ。多分y君が言ふたのだらう、描いてゐる人の顔、バツタの顔をしてy君の顔、其處彼處からフフフ、クスクスクス！

y君の聲は可なり太く強かつた。そして色々の場合に現される其のゼスチニアは大きく而もユーモアタップリであつた。此の事がやがて線の細い顔の動きと伴ふて應援團長として名聲を博した所以になつた。應援團長に共通のものは天眞爛漫の四字である。

このナイーヴなy君こそ彼の一生を通じて最も得難い長所ではなかつたらうか、y君の居る所和氣藹々として常に笑聲絶えず朗かであつた。教室でも桑園實習にも、勿論それを補助した多くの雀のゐた事も必然であるが、暑い真夏の登山にもy君がゐると疲れが少かつた。

校歌を教へて呉れたのがy君だ。得意中の得意の端唄は伊那節であつたらしい。入學後初めての養蠶も中に進んだ五月下旬の土曜日の午後幸ひ蠶の眠中を利用して誘はれる儘に太郎山に登つた同行二人。y君はドーランを持ち私は空手。

私は此の時初めてy君の心に觸れた。私の半生に於て科學に對する興味を最も強く喚び起された忘れられぬ強い印象を刻んだ半日であつた。私の今日は其時決定したと云ふても過言ではあるまい。

y君は博物特に植物が得意であつた。樺村や山崎、竹内の諸兄が集ると直ぐに草の名稱や昆虫の生活論に花が咲いた。私は唯々慢然と彼等の足跡を追つてゐたに過ぎなかつたが勿論得た所の收穫は大きかつた。太郎山には遅咲きの山櫻に鈴蘭がある事位しか知らなかつた私はy君が路傍の雑草に一々名稱を付しては私に摘取つて寄越して呉れたには驚かざるを得なかつた。草の名は澤山は覺へられなかつたが随分此の半日で博識になつた様な気分を味つた。勿論お蔭で植物圖鑑など買込んで見たが！

あんな体でと思つてゐるy君が太郎山位と思つてゐる自分より常に先頭を切つて登つて行く。井上博士の井上式登山歩行法(私の勝手に付けた名稱であるが)に相對して依田式登山歩行法とでも云ふべきか。y君の登山の時はずつとヘルメットが用意されてゐた。ヘルメットは外人が大都會の交通調査しか被らぬものと思つてゐた私には異様に強い印象が残つてゐる登山用には人体生理上よりも又登山用具の一つとしても理想的のものらしい。太郎山にヘルメットが見ればy君だと思つて間違ひなかつた。

『太郎山、あれはy君、ヘルメット』y君は射撃の名手である。高級で相當に強度の彼の空氣銃は其の腕と相俟つて相當の距離から大物を易々と射止めてゐた。蠶室の前に大きな柳の木がある。不幸これに泊つた一羽のモズ、これを見たy君よし射つて見よう……まさかと思つてゐた柳の頂上からかすかに嘴を打たれた鳥が落ちて来た。

y君は鳥類の卵を澤山標本に持つてゐた。産卵する場所により地勢や色調により夫々適應せしめて産卵された色々の興味あるものが集まるとの事であつた。非常に興味ある研究ではないか。

卒業の春、私を呼んだy君と心行くまで語りあつた時……どうだ長距離競争の心算でゴッ／＼勉強して見ないか……そうか而し曾根さんチャンスをつかむ事は將來の爲だぞ。親元を離れたとて挙行が出来ない事はない、その中近くに來る様になる時節もあらうと云ふものだ……

そして遂々私は九大の蠶學教室の一員となつたのであるが、y君は私の半生に色々の状態に於て活や注射を興へてくれた。私が水戸に始めて世帯を持つてから最初に訪問し泊つて呉れた同窓はy君だ。冬の小雨降る夜、宴會の後で外泊したが軽い風邪の彼を家に連れ込んだのだ。

……そうかフラウを貰つたのか。親孝行が出来て満足だらうね。そうか。そうか……と黒頭いてゐたy君(私は結婚後幾人もから意外だぞと云ふ手紙を受取つてゐた)翌朝になつて……此處で泊つて良かった。布団は新しい宿屋のより長いし

吸くて風邪の心配もなくなつた……と喜んでゐた。使ひ初めの客布団だ。新しいのはあたりまへでせう！その時置き忘れた洋傘を誰れのか思ひ出せず半生近くもなつて思ひ當り送り返した事がある。

そのコモリ、ヘルメット、空氣銃、そして素晴らしい顯微鏡等々今頃一緒にy君と眠つてゐる事か。多方面にお顔の廣いy君だ。語る事は澤山あるが何れその中ボツ／＼書く事にしよう。(以上)

宮下君の逝去

宮前 邦雄

それは暑氣と濕氣とが強く健康體の吾々にとつてせら實に堪へ難い七月十三日の午後の事であつた。突然しかも役所の同僚から不意に宮下君の訃を教へられたのであつた。迂闊と云ふか、疎漏と云ふか、しかし同期生諸君は皆一様に楽しく健康に働き合つてゐるものとのみ信じ切つてゐた自分にとつては餘りにも意外な出来事であつた。本當であらうか、自分

はなほも其の虚實を疑つてすぐさま片倉本社に電話し先報を煩したのであつたが七月六日午後五時半東京の北里研究所附屬養生園に於いて逝去され遺骨は沼津に移され去る九日告別式送葬行された旨を告げられたのであつた。宮下君が、宮下君が、恥しい話ではあるが、後は云ひ様のない焦燥と興奮とに落付かぬ儘に何ともあれ此の悲しみと驚きとを分つべく東大農學部に研究中の同期生山口定次郎君に電話し、すぐ様駈付けて呉れた同君と互に慨嘆しつゝ取り敢へず級友に通報してせめても寂しく逝つたであらう宮下君の魂を幾分なりとも慰めんものと計つたのである。

中學の五箇年間それから共に蠶絲の道に進んで三箇年の懐しい上田の生活さうして卒業以來十有二年互に人生の小徑を喘ぎながらも進み續けて君は既に沼津片

倉蠶種製造所に於いて無くしてはならぬ立派なる存在として其の地位を保たれて居られる事を聞きつゝ、知りつゝ喜んで居つたのであつた。昨年二月には幸ひ役所の出張の折久方振りて面接の機を得大いに語り大いに談じた其の懐しい思ひ出を未だ其の儘に持ち續けてゐる僅か一年半の今日、もはや互に相語る事の出来得ぬ君となられやうとは何んとして考へられやうか。

宮下君は實に活潑と云ふか物事にこだはらぬ性格の持ち主であつた。不平を云はぬ性格さつぱりとした性格。人さばりの良い、京ちゃんとしての君の存在は恐らく級友皆の背懐しい思ひ出の中にたまれてゐる事であらう。

中學時代から上田時代を通じて庭球選手としての君、ラケットを片手に持ちニコニコとしたスポーツマンらしい姿は目に彷彿として今更ながらに轉入生の無常に胸うたれるのである。残された御令聞、すがり場を失はれた二人の御令息(八才、五才)君の悲しみも亦それ丈最後迄此の絆のために悶へられた事であらう同じ人の子の父となり親となつて自分

昔の人懐しい君の姿を思ひ、今逝かれた君の心境を思ひ割られる様な胸のいたさを禁じ得ないのである。

せめても亡き面影を最後の地に求めんものと今日は退隱後夕暮君の逝かれた東京芝區なる北里研究所附屬養生園を訪れたのであつた。老看護婦さんの白衣に纏つて君のありし日の有様を伺へば、責任感の強い君は最後まで働き續けられたものゝ如く入院された頃既にもはや餘程の重態であつたと聽く。今自分の立つてゐる此の病棟に於いて最後迄如何に身と心の関へに苦闘された事であつたであらうか。靜かなる見上げた左二階の病室から洩れ来る電燈の光りに眼目久しく首を垂れて今は亡き君の魂の前に其の冥福を祈つたのであつた。

西の空沼津の地にあつては今頃は母上と共に遣されて御令息二方仲良く夕餉の食卓に向はれて居られるであらう事を偲びつゝ、只管多難な人生に延び行くいたいけな魂の上に幸あらん事を願つて暗憐として歸路についたのである。

會員動靜 (七月廿一日現在)

- 平本常三郎(舊職) (勤)洞生市東町八二〇、日本網襪株式會社機械部(住)栃木縣足利郡山前村大字大前
松村季美(蠶一) (勤)從前通り(住)東京市杉並區宿町二五二
金學仁(蠶一) (改名)東下改名(勤)滿洲國新京永昌路、滿蒙日報社(住)新京西四馬路樂融胡同二五

編輯室より

△學校も八月ともなれば本格的に夏休に入り活動してゐるのは事務と養蠶科文である。編輯子の身邊にも多少の自由が出来る。編輯子の身邊にも多少の自由が出来る。編輯子の身邊にも多少の自由が出来る。

投稿規定

- 一、内容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部を來月廻しとする事がある。
一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。

廣告規定

Table with columns: 寸法 (寸法), 期間 (期間), 一月, 六月, 一年. Rows: 1頁, 1/2頁, 1/4頁, 1/8頁, 1/16頁, 1/25頁.

優良蠶種豫約募集

昭和十二年度秋、晩秋蠶種
×國蠶日一一號
×國蠶支一〇七號
×國蠶日一一一號
×國蠶支一〇七號
×國蠶支一〇七號
×國蠶支一〇七號

小川保

電話市村局一一一五番
振替(廣島)二四六番
振替(大阪)三三三番
電報別便配達料不要